

所報

題字: 武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第166号 令和4年3月16日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

(主な内容)

・ R3 年度江別市教育研究所事業報告について

令和3年度 江別市教育研究所事業報告

江別市教育研究所は、市内における教育理論や実践の一層の進展と充実を図るために、調査や資料の収集整理、教職員研修、関係機関との調整等に努めています。3月に入り、今年度の主な取組を終えることができましたので、令和3年度の江別市教育研究所事業報告をいたします。

1. 所員会議について

(1) 構成

所長	西田 昌平 (教育部長)	
副所長	佐藤 学 (学校教育支援室長)	吉田 光岐 (上江別小学校長)
所員	鎌田 康弘 (豊幌小教頭)	本岡 育美 (東野幌小教諭)
	厚海 孝司 (江別太小教諭)	松本 圭正 (中央小教諭)
	松平 知 (大麻中教諭)	
事務局長	高橋 秀明 (教育研究所)	
事務局次長	岡田 健吾 (学校教育係)	

(2) 会議

第1回：年間事業計画、所員の業務、夏期セミナーの内容(書面会議)

第2回：意識調査の項目検討 (リモート会議)

第3回：夏期セミナーの反省、意識調査の集計の分担 (リモート会議)

第4回：意識調査の分析・考察の分担 (リモート会議)

第5回：意識調査の分析・考察の検討

第6回：今年度の事業の反省、次年度の計画 (リモート会議)

2. 教職員夏期セミナーについて

新型コロナウイルスの感染防止対策のため、講座数を6、一講座の参加人数を50名以内にし、規模を縮小して計画。実施期間中に、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、北海道博物館の施設閉鎖で、第⑤講座の「アイヌ民族文化」が、中止となったが、それ以外の5つの講座は無事に実施することができた。市内の教職員158名が参加し、実施後のアンケートで「大変良い」「良い」が約96%の肯定的評価を得ることができた。



夏期セミナーで講義を受ける教職員の様子

3. 調査研究報告書No.37について

「意識調査」に基づく調査研究報告は、昭和60年から毎年実施。今年度のテーマは、新型コロナウイルス感染症の流行によって、1年半以上続いている自粛生活が児童・生徒にどんな影響を与えているのか探る目的で、「新型コロナウイルス感染症の影響による児童・生徒への意識変化調査」とした。

抽出した8校の児童・生徒の調査結果を集計し、分析・考察を加えたものを、調査研究報告書No.37号として、市内各小・中学校をはじめ道内の各教育関係機関等に配付・送付。

4. 小学校外国語教育指導連絡協議会の運営

- ・第1回：年間事業計画、現状交流、研修（感染症の影響で5月予定が、7月に延期して実施）
- ・第2回：事業の反省、現状と課題の交流（感染症の再拡大で、書面会議に変更）
- ・研修

11月に江別第一中学校、12月は東野幌小学校で、参観交流授業を実施。

これまで、各校の代表に参加して頂き、事後研修を通して、指導の向上につなげていくこと目的としてきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、参加対象者をALTに絞り込んで、ALTの支援スキルアップを目的とした研修に変更して実施。



東野幌小学校での交流授業の様子

5. 体力向上事業の推進

(1) 「朝運動プログラム」普及出前授業

当初の計画では、前期2校（6月：大麻東小学校・江別第一小学校）、後期（11、12月：北光小学校・いずみ野小学校・江別太小学校）で、計画が立てられましたが、新型コロナウイルス感染の拡大で、6月に緊急事態宣言が発出され、前期実施の2校が、後期実施の変更を余儀なくされました。

また、後期実施となった出前授業は、11月24日（水）の北光小を皮切りに、第一小学校、江別太小学校、大麻東小学校の4校で予定通り実施されましたが、2月に実施予定であったいずみ野小学校だけが、感染症の再拡大から道内に蔓延防止措置が適用され、実施が見送られることになりました。

尚、実施された4校においては、遊びの要素を取り入れながら楽しく学ぶことをコンセプトに、各学校の要望に応えたメニューを、北翔大学に提供して頂きました。

(2) 「走り方教室」モデル授業

昨年、新型コロナ感染防止対策のため中止となった「走り方教室」でしたが、今年は各校から希望を取り中12校で計画が立てられ、緊急事態宣言の影響を受け2校（江別太小、野幌若葉小）が中止となりましたが、北翔大学と野幌中学校の協力を得る中、10校（第一小、第二小、豊幌小、大麻小、対雁小、野幌小、大麻東小、大麻西小、大麻泉小、北光小）で実施することができました。

6. 所報の発行

- ・本号を含め7回発行し、広報活動に努めました。